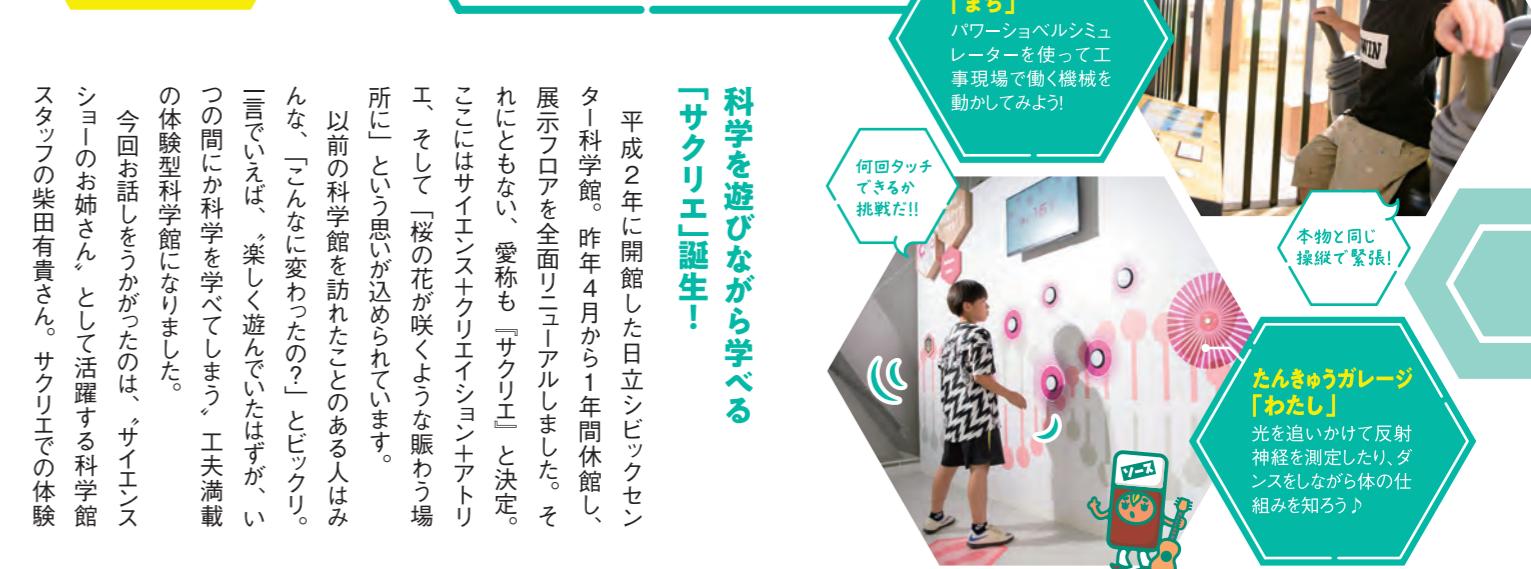


「サクリエ」 自由に、科学を体感！



私たちスタッフが心がけているのは、「一緒に遊びながら学びに導く、コミュニケーション」です。単に展示物の遊び方を教えるのではなく、遊びの中で不思議に思う気持ちを刺激し、それをお家に持ち帰ってもらいたいと思っています。この小さな好奇心の芽が枝葉を伸ばし、いつかノーベル賞を取る研究者や宇宙飛行士が誕生するかも知れません。

あたま、からだ、こころが フル活動の科学展示

一般的に科学館の見学というと子どもが中心で、大人は子どもが見学するのを離れて見守っているのが常ですが、サクリエはそもそも趣向を凝らし、大人と子どもが競い合って夢中で樂しめるゲームのような展示もたくさんあります。

例えば、人体の反射神経を学ぶコーナーでは、わが子に負けまいと額に汗をじませてハイスクアを目指すお父さんや、ミニ科学実験が楽しめる『はてなコンテナ』を片つ端から試しながら、「あの不思議はどういう原理だったの!」と謎解きに夢中のお母さんの姿も見られます。

そして柴田さんおすすめの立体錯視の展示では、アート×数学が作り出す不思議に驚嘆して見入ってしまう方も多く、展示物をくり替えたのでは?と思えるほど変化が楽しめるのだと。街や暮らしの中にも科学はふれています。身近な科学として、

日立シビックセンター科学館は、科学をこれまで以上に身近に感じ、楽しいひとときを過ごしていくだけの施設となるよう、大型リニューアルを行い、今年の4月17日に新たな科学館として生まれ変わりました。

新たな科学館は、公募により『サクリエ』という愛称が名付けられました。「サイエンス」、「クリエイション」、「アトリエ」など、科学館の魅力を表す言葉から誕生した愛称で、子どもたちの笑顔とまちにぎわいが花咲く、という期待も込められております。

フロアの展示物も一新し、子どもたちだけでなく、大人の方にも科学の不思議や面白さを体感していただける施設となっておりますので、ぜひ多くの方々に、足を運んでいただければと思っております。

『サクリエ』が、科学への好奇心と探求心を育み、より多くの方々に愛され、親しまれる科学館となるよう、運営をしてまいります。

科学館での楽しい体験が 理科離れにストップを

「科学館で体感したことが理科好きにつながってくれれば嬉しいです。子どもたちはもちろんですが、大人の方にこそ科学に興味を持って欲しいと思います。お父さんお母さんが科学に興味を持つて欲しいと思いません。子どもたちを科学館に連れて行こうといふ気持ちになるわけですから」昨今の「理科離れ」、解消の一翼を担えたらと熱い想いを表す柴田さん。

一方で、真偽の定かではない科学情報も

食事をテーマにした展示で食育を学んでもらうのもサクリエならではだと思います。また、天気について学べるコーナーや、市内の地質を実際の岩石で立体地図上に配した模型など、「日立市ならでは」の展示類を楽しみながら、地域への理解も深めてもらえた」と語ってくれました。



日立市長 小川春樹さん



飛び交う中、しっかりと「理科」を学び直したいという人も増えてきました。サクリエで遊んでみると、科学は教科書の中の「知識」ではなく、自然に対する「ものの見方」だと気づきます。ここで遊んだ後なら、理科がちょっと苦手だった大人も、再び科学に興味を持てるかもしれません。

「教科書に書いてあったことってこういうことだったのかと、体感してはじめて腑に落ちることがあると思います。また、子どもの頃にここで体験したことがあると、あの体験はこの原理なのかと経験と知識がつながることもあるでしょう。そういう体験が科学をいっそう身近に面白いものにしていきます。

乳幼児用のキッズスペースも設けられ、幅広い年代が同時に楽しめることができる同館。自由研究のヒントもたくさんあるので、夏休みに家族そろって出かけてみてはいかがでしょうか。